

Q&A

膵頭部嚢胞による閉塞性黄疸症例

【問題】

症例：73歳，男性。

主訴：皮膚黄染。

現病歴：褐色尿，黄疸にて近医を受診し，精査加療目的で当科紹介受診となった。

既往歴：46歳 十二指腸潰瘍。

入院時現症：体温：36.9℃，血圧：117/82mmHg，脈拍：80回/分。皮膚黄染あり，眼球結膜に黄染あり。腹部：平坦 軟 圧痛なし，腸蠕動音：亢進・

減弱なし。

血液検査所見：WBC 8800/μL，Hb 12.1g/dL，T.Bil 13.0mg/dL，D.Bil 11.8mg/dL，AST 358U/L，ALT 250U/L，LDH 411U/L，ALP 4074U/L，γ-GTP 2473U/L，CRP 9035mg/dL，CEA 7.0ng/mL，CA19-9 52U/mL。

各種画像検査を示す (Figure 1)。

考えられる疾患は？

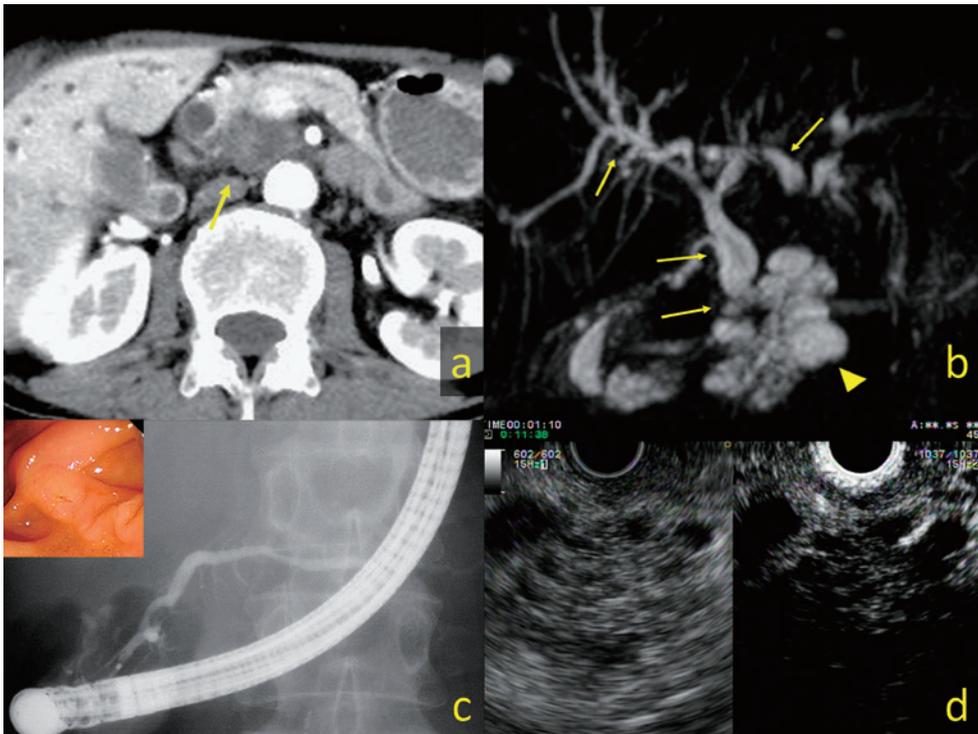


Figure 1. (a) 腹部造影CT：膵頭部 (矢印) に低吸収腫瘤を認める。(b) MRCP：遠位胆管の狭窄と肝門部胆管および肝内胆管拡張 (矢印) を認め，膵頭部に多房性嚢胞 (矢頭) を認める。(c) ERCP：正常乳頭であり，主膵管の走行異常，嚢胞との交通は認められなかった。(d) B-mode EUS：(左) 膵頭部に境界明瞭で内部および辺縁に小嚢胞の集簇をともなう低エコー腫瘤を認める。造影ハーモニック EUS：(右) ソナゾイド®投与 70 秒後の観察において，病変の充実部分は hypo-enhancement pattern を呈した。